

萌木　１０月

～自尊・立志・感動～

調布市立第七中学校
校　長　山田　勝
令和８年１０月１３日発行

「受け取る」から「受け継ぐ」へ

校長　山田　勝

中間考査がおわり、２学期も１０月の生活がスタートしています。各学年ともに、校外での行事が豊富な２学期です。３年生の修学旅行には同行しましたが、１年時に比べ、集団行動時の配慮や行事に対する目的意識の高さなど、大きな成長が見られました。２年生の職場体験では社会に甘えることなく自分を律しながら取り組めました。はしうち教室の移動教室では１年生２年生３年生それぞれが自分の段階に応じて自分を表現することが上手になり成長した姿が見られました。先日行った１年生の調布調べでは自分の成長へ向けた気づきが、これからの成長にどのように展開していくのか楽しみです。

今月末には合唱コンクールと本校の開校５０周年記念式典があります。合唱コンクールに向けた日々の練習での成長も期待しています。また、節目の５０周年に在籍している生徒たちには、５０周年記念行事への参画により成長へとつなげてほしいと思います。ここ七中で巡り合った仲間と、この七中の環境で育まれてきた校風や伝統を改めて自分事として捉え、自分の成長に結び付ける機会を大切にしたいです。その思いを踏まえ、全校朝礼では次のように話しました。

【前略】合唱コンクールに向けた取り組みを通して、自分や自分たちがどの様に成長していけるのか、一人ひとり考えて参加してください。取り組みの中での自分の成長を実感して楽しめるよう、準備してください。期待しています。

また、そのあとはすでに１学期に航空写真撮影をし、記念誌の一言を記していると思いますが、今年５０歳をむかえた七中の記念式典、誕生会が開かれます。式典は生徒の皆さんと市長さんはじめ地域の代表の皆さんとともに行う一つの儀式です。その日の給食の献立でも、お祝いメニューを用意してくださいました。

このような取り組み・儀式を通して、今年度在籍している皆さんが５０周年に関わり七中で学ぶことの意味の一つを感じてほしいと思います。皆さんの先輩たち卒業生はどのような思いでこの七中で学んできたのかと思いをはせることで、みなさん自身の成長にもつなげてください。

七中の校歌には多くの思いが込められています。そのように感じたので、９月の学校だよりから私なりに校歌に込められている思いを読み取って発表しています。七中の校歌は、校章とともに開校した年に生徒や保護者に公募して作られたものです。歌詞は当時の１年生の保護者の方の作品が選ばれています。それから５０年、校歌に込められた思いが校風などとともに、歌い継がれてきています。

みなさんもこの七中の校歌に込められている願いに思いをはせて自分なりに解釈して歌ってください。

５０年という重みを感じつつ、日々の生活・活動を通して自分の成長を楽しみながら行動できる七中生の２学期を楽しみにしています。

永い歴史のむさしのに
流れる野川水清く
われらの集う学舎に
大きなのぞみと夢が湧き
かがやく明日を語る時
あゝ　七中に栄えあれ

「校歌」に寄せる思い②

七中から社会に旅立つ力強い七中生をうたった一番に続き「歴史ある武蔵野台地の野川のほとりに集どう学び舎では、野川の湧水と同じくらい七中生の希望と夢が湧き出てきていて、明日の輝く日々を語り合ってますます人の思いが集まり栄える場となっている。」と解釈してみました。ここで学び成長するかけがえのない場の七中を歌っていると受け取りました。